

## ■ JNSC2013 の紹介

## JNSC2013 の紹介

山科 章

第 23 回日本心臓核医学会総会・学術大会大会長・東京医科大学内科学第二講座

平成 25 (2013) 年度の第 23 回日本心臓核医学会・学術大会を開催させていただくことになりました。平成 25 年 6 月 28 日 (金) - 29 日 (土) の 2 日間、東京・品川、東京コンファレンスセンターで行いますが、その概要について紹介いたします。

心臓核医学検査は、冠動脈疾患領域においては虚血を画像で定量的に評価できる診断法として豊富なエビデンスと共に、この 30 年間余り中心的な役割を果たしてきました。一方で他の画像診断法も進歩しており、冠動脈病変の形態的診断法として心臓 CT、MRI、さらには IVUS、血管内視鏡、OCT などさまざまなモダリティが登場しています。しかし、形態学的に診断された狭窄病変に対する治療方針の決定には機能診断すなわち虚血の証明の重要性が再認識されています。そこで、本学術集会では、「虚血の評価を改めて考える」をメインテーマとしました。

初日 6 月 28 日のイブニングセミナーでは、メインテーマとはすこし異なりますが、聖路加国際病院福井次矢病院長に「診療の質改善の試み: とくに循環器系分野の Quality Indicator について」、東京医科大学心臓血管外科荻野均教授に「大血管疾患の最新の治療」の講演をいただきます。いずれもわれわれ循環器画像診断に関わるものにとって重要な話題であり、勉強していただきたく企画しました。

翌 6 月 29 日には、教育講演「PET を用いた心筋血流および虚血の評価」として、2012 年に保険適応になった  $\text{NH}_3$ -PET に加えて Rb PET についてご講演いただきます。シンポジウムは 3 題企画し、シンポジウム 1「虚血の評価と治療」では、心臓カテーテル (FFR)、核医学、冠インターベンション治療の立場からとして 3 人の先生にディスカッションいただきます。シンポジウム 2 は、最近臨床使用が可能になった心臓専用 γ カメラである、「半導体 γ カメラの現場から」を企画しました。シンポジウム 3 は、2012 年に FDG-PET が保険適応になったことに合わせて、「心サルコイドーシスを如何に診断するか」を企画しました。

新しい企画として「1 年間の不勉強を取り戻したい人のための心臓核医学セミナー」というテーマで MIBG、BMIPP などの核種、虚血の評価に関する臨床核医学を含めた展開をお二人の先生にご講演いただきます。そのほか、恒例の心臓核医学会賞、YIA 賞の受賞講演、一般演題の発表を行います。

心臓核医学には多くの専門領域が関わっています。その発展にはそれぞれの専門にとどまらず、他領域の方々々と意見を交換し、知識を共有することが重要です。できるだけ多くの先生方に参集いただき、意見を交換すると同時に face to face の交流を深めていただきたいと思います。